

## 第4回フラッグシップ輸出産地に関する有識者会議 主な意見

### ○フラッグシップ輸出産地の選定について

- 第1回の募集だったこともあり、周囲の様子を見ている事業者・コンソーシアムも多かった。次回の応募時にはメリットを分かりやすく提示する形で募集をかけられると応募事業者が集まると感じている。
- 今回応募のあった事業者が認定されることで、輸出に向けたモデル産地として裏付けられ、新しい輸出産地としての指標になることを期待している。これらの産地が横連携を取りながら輸出の課題である周年供給を達成できるような体制を構築していく必要がある。また、産地のみならず流通・販売のサプライチェーンを強固にしていくことも非常に重要である。
- 最近では輸出政策に乗る形で新興産地の生産者も力を入れて輸出に着手している。新たに生産性の高いフラッグシップ輸出産地が選定されたことは、生産をさらに伸ばしたい生産者にとっては良い目標になる。このような産地の生産者の動きを見つつ、今後もしっかりと情報提供をして頂きたい。

## ○フラッグシップ輸出産地への支援に関する7つの提言について

- 今後は輸出先国の現地加工業者と連携して製品化することが非常に重要になってくる。現地でこの業務を行っている企業は数社程度と非常に少なく、国からの支援への要望が強い。
- 提言の1番目に挙げている「輸出向けの施設・機械の整備」や「大規模な基盤整備」が必要であることに加え、地域計画に基づく農地の集積集約化が必要であると考えている。輸出促進関連予算を上手に組み合わせる等連携させて、実を挙げる予算執行になることを願いたい。
- 輸出をするためには、まずは“つくる”、そして“はこぶ”、最後に海外で“販売する”ステップになる。その1番目の“つくる(生産する)”段階での、最重要課題は労働力不足だと考えている。労働力確保を解決して生産基盤が維持できないと、積極的に輸出に取組めない。
- 全体として、川上から川下、いわゆる生産・物流・販売の段階が網羅されており、非常に良い提言だと思っている。
- 冒頭に海外の規制対応と明記されているが、輸出のための認証取得に対応しづらいと生産者からの声を聞くことが多い。認証取得に関わる支援をもう少し充実させると、輸出する可能性が広がると感じており、輸出生産基盤の確保につながる。
- 7つの提言を受けて、輸出・国際局だけではなく、様々な部局が一丸となって支援策を講じていくことが重要である

以上